

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年 2月14日にパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

区分 I : 該当なし

区分 II : 該当なし

区分 III : 該当なし

その他: 4 件

NO.	号機等	不適合件名	グレード	発見日
1	1号機	タービン補機冷却系熱交換器(B)において、渦流探傷検査により伝熱管1本の外側(バフフル)に減肉が認められたため、当該伝熱管を閉止。 なお、当該熱交換器の伝熱管は2840本あり、これまで3本の伝熱管を閉止しているが、閉止許容数は47本であることから、今回の1本を閉止しても熱交換器の性能に影響はない。	GⅢ	2月8日
2	1号機	残留熱除去冷却系高圧空気入口弁(P48-SO-F182B)において、弁シート部からの空気漏えいが認められたため、当該弁を点検・修理。 なお、弁シート部からの空気漏えいにより、残留熱除去冷却系調圧タンク(B)の圧力が上昇することから、当該調圧タンクの安全弁の吹出し圧力(3.26MPa)を超えないよう必要に応じ空気抜き操作を行う。	GⅢ	2月8日
3	3号機	原子炉格納容器低電導度廃液・高電導度廃液出口流量記録計(E31-FRS637)の点検において、記録計から外部への出力が発信されないことが認められたため、当該記録計を点検・修理。 なお、原子炉格納容器サンプへ水を流す作業を行う場合は、記録計の表示とプロセス計算機のトレンドグラフにより監視を行う。	GⅢ	2月3日
4	4号機	主変圧器排水ポンプにおいて、「4号主変地下タンク水位高」警報の発生が認められたため、当該排水ポンプを自動運転させる液位検出スイッチを点検・修理。 なお、操作スイッチを手動で運転位置とし主変圧器排水ポンプを運転したことにより地下タンクの排水はできたことから上記警報は消灯。	GⅢ	2月5日